

# あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '90 12月号

## 活動報告 「平塚の空襲と戦災を記録する会」

この「記録する会」は、昨年6月に発足し、早一年半が過ぎました。この会のこれまでの活動の様子をご紹介したいと思います。

まず、今年の6月～7月にかけて、博物館寄贈品コーナーとして「平塚の空襲と戦災」をテーマに展示を実施しました。このコーナーでは、空襲後の被災現況を伝える新しい写真資料を中心に、市内各地の死者数を示したグラフや焼夷弾・被災状況調査簿等の資料およそ60点を展示しました。また、合わせて、展示期間中に平塚の空襲についてのアンケート調査を実施しました。こうした空襲の展示に比較的若い人達が関心を示し、熱心に見入っていたのが印象的でした。

さて、この会は、空襲と戦災の史料発掘と記録保存を目的に発足した会ですが、戦後45年を経過し、予想されていたこととはいえ、意外に失われた物が多い事に驚いています。従って、当初予定した調査も実質的には、思うように進んでいないのが現状です。はじめは、被災各地（本宿・新宿・馬入・須賀）の現況把握を目的に調査を開始しました。しかし、本宿・新宿・馬入・須賀等の地区を見てみると、戦災復興事業の結果、あまりにも変わってしまい、ごく一部を除き、被災地すら確定できずにいるのが現状です。

そういう中にあって、戦前からの建物が、市域にまだ数多く残されていること、また、実際に空襲に遭い、一部焼痕の残る家に現在も住まわれている方がいられること等が確認できたことは、この調査活動の成果であったと考えています。

現在は、「記録する会」  
参加者の同窓・同級名簿を  
たよりに空襲に関するアン  
ケート調査の準備中です。  
また、さらに、一年半の成  
果を会報としてまとめた  
ための作業にも入っています。  
会報の名称を「炎の証言」  
とし、平塚空襲の概報をは  
じめとして、体験記・日記  
等を盛り込んだ内容にして  
いこうと考えています。

一日も早い会報の発行と  
市民を対象にした空襲に対する  
アンケート調査実施に向かって、全員、協力して  
がんばっていきたいと思  
います。



昭和20年、江藤愛三郎氏撮影  
(現在、日本たばこ産業付近)

「ヤモリはいませんか。」一家の中の動物調査にご協力を—

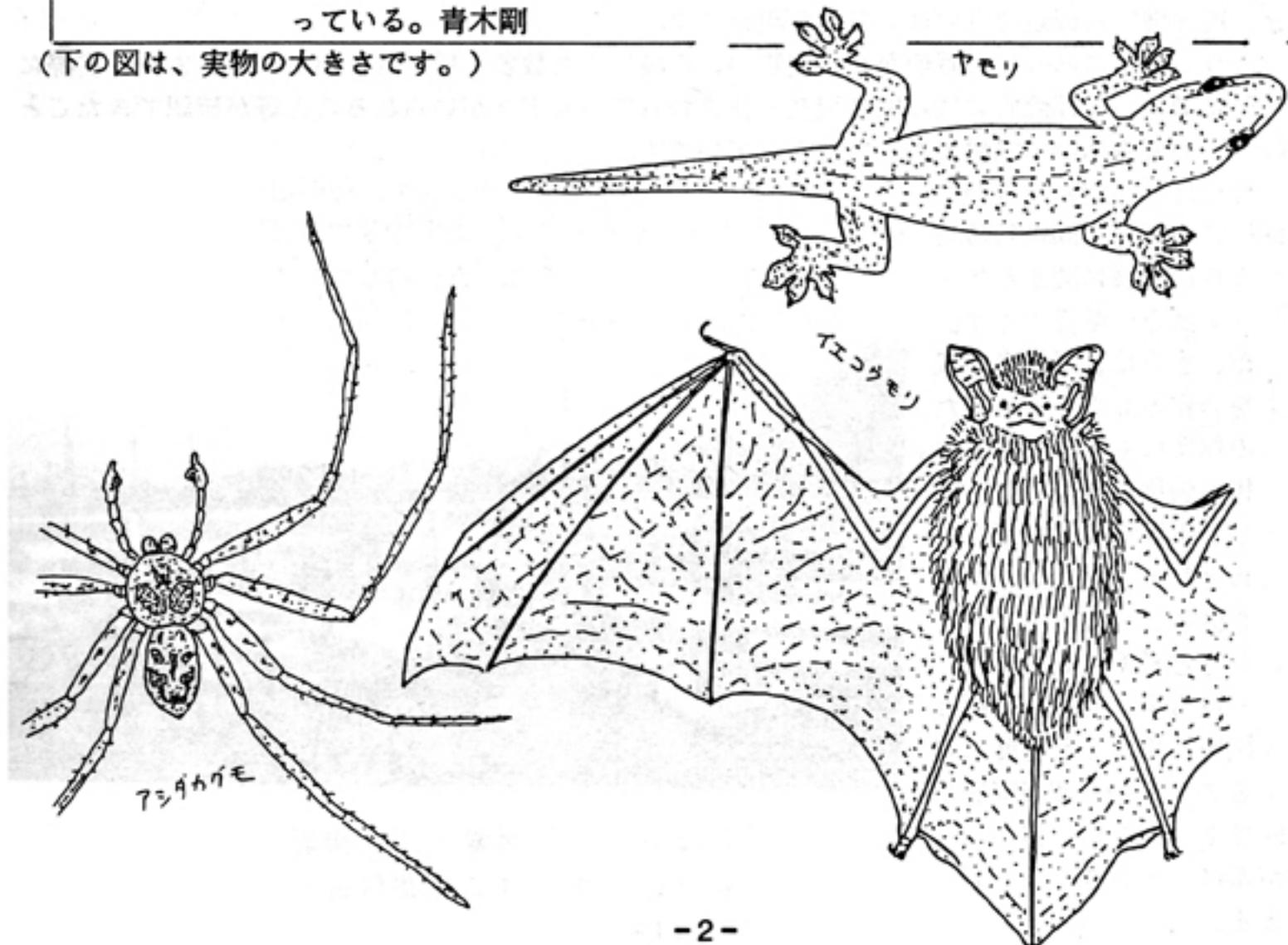
ひと昔前まで、家の中にはいろいろな動物が暮らしていました。ハエやカはもちろんのこと、天井裏をネズミが走り回ったり、時にはムカデが落ちてくる家も珍しくありませんでした。縁の下にはアリジゴクが巣を作っていました。1960年位を境に、建材や建て方が変わり、すき間のない家になって来るにつれて、そうした動物もだんだん姿を消してきました。しかし、今でも動物がまったくいないという訳ではありません。チャバネゴキブリやイエヒメアリのように、むしろ増えてきた動物もあります。1990年の現在はどんな動物が家の中で見られるのでしょうか。それを調べる手始めに、次の3種類の動物について平塚での分布を記録しようと考えました。ぜひ、ご協力をお願いします。

- ヤモリ／全身灰色で手足に吸盤があるトカゲのなかま。壁や窓に張りついている。地面にはいない。
- アシダカグモ／足が長い大形のクモ。ゴキブリを食べる。
- イエコウモリ／屋根裏などにすみつくコウモリ。夕方飛び出して、ヒラヒラと飛び回る。人家の近くでコウモリを見たらこの種類と考えてよい。

これらの動物を見たことのある人は、【いつ、どこで、誰が見たか】を下のような要領で博物館(〒254 平塚市浅間町12-41 生物担当あて)まで知らせて下さい。整理の都合上、お知らせはハガキをお願いします。なお、知らせて下さった方には、後日結果をまとめてお送りしますのでご自分の住所・氏名も忘れずにご記入下さい。●以下は、知らせ方の例

- ・ヤモリ／平塚市御殿の自宅の壁に時々ついている。今年も9月上旬頃見た。平塚花子
- ・アシダカグモ／10月10日に平塚市高根のスーパーの窓についているのを見た。山田孝
- ・イエコウモリ／平塚市浅間町の文化センター公園では毎日夕方になると2匹か3匹が飛び回っている。青木剛

(下の図は、実物の大きさです。)



## 「手漉（てぬき）和紙ができた！」

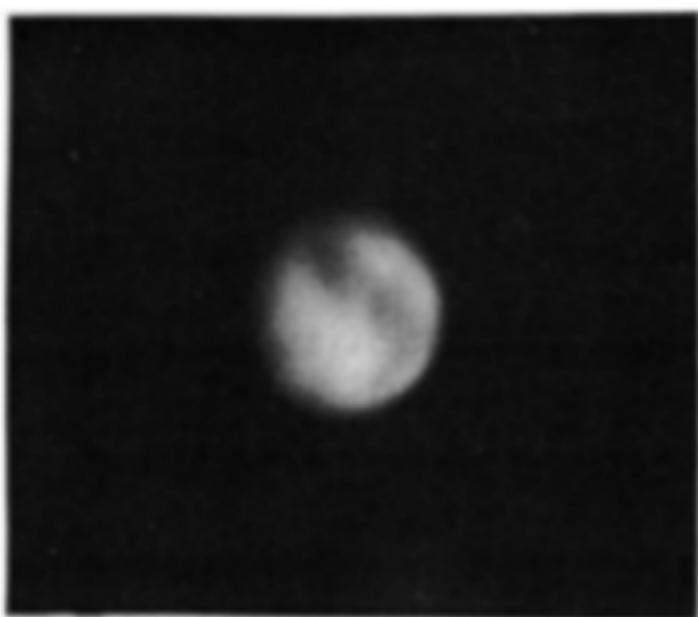
体験学習「紙すき」は、10月28日の日曜日、予定の応募者数を大幅に上回り、合計21名の参加者を得て実施されました。当日の指導は、この道三十年の経験を持つ埼玉県小川町在住の金子幸五郎・金子庫一の両氏にお願いしました。小川町の手漉き和紙は、国の重要無形文化財にも指定されており、金子庫一氏は、その伝統技術保持者の一人でもあります。当日の体験学習は、二つのコースを設けて行ないました。一つは、当館所蔵の手漉用の舟を利用して、こうぞを漉くいわゆる和紙漉きの技術を学ぶコース、もう一つには、和紙のできるまでを、原材料より煮熟→水洗→除塵→叩解→紙漉きという工程にしたがって学ぶという二つのコースを用意しました。参加者の皆さんには、その両コースを体験していただきました。

原料がこうぞ百パーセントの手漉き和紙が作品として残り、また、何よりも現在にあっては、消えつつある伝統の技術に触れることが出来たことは、貴重な体験だったのではないでしょうか。



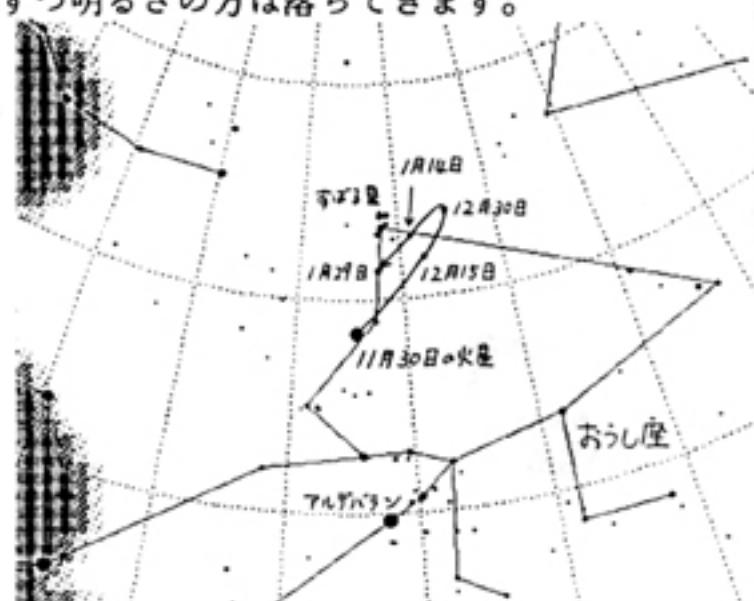
## 「火星接近、見つけて観察してみませんか。」

今、夜になると東の空に見える明るく赤い星が火星です。火星は太陽をまわる惑星のうちで地球のひとつ外をまわっています。約2年で一周しています。ちょうど今は地球が内側から追い抜いたところで、地球との距離が近くなっています。明るく見えているものです。惑星は星座の中をふだんは東向きに移動して行きますが、現在はわれわれに追い抜かれて行くところなので西に移って行くように見えています。ですから、1月に入ると再び東向きの移動にもどります。このようすは、近くに見える同じオレンジ色をした1等星のアルデバランや、細かな星の密集したプレアデス星団（すばる星）と位置をくらべてみるとわかります。図を参考にして確かめてみて下さい。最接近が11月20日でしたので、これから少しずつ明るさの方は落ちてきます。



「火星」

博物館屋上より撮影(90.10.31) -3-



「火星の見える位置」

1月上旬では、午後8時ごろ  
" 下旬では、午後6時ごろ  
ほぼ真東30度ぐらいの高さ

## 行事案内

### 12月の予定

2	日	体験学習「巣箱作り」
7	金	星を見る会「火星と冬の星座」
8	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会
9	日	漂着物を拾う会※8時平塚海岸
15	土	天体観察会「ふたご座流星群」 平塚の空襲と戦災を記録する会
16	日	相模川を歩く会（まとめ）
22	土	体験学習「おかざり作り」 古文書講読会 土曜観察会
23	日	漂着物を拾う会（鎌倉方面）

### 1月の予定

6	日	漂着物を拾う会※8時平塚海岸
12	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会 ナチュラリスト講座 天体観察会「スター・ウォッチング」
19	土	漂着物を拾う会（茅ヶ崎方面） 平塚の空襲と戦災を記録する会
26	土	古文書講読会 石仏を調べる会 土曜観察会
27	日	相模川を歩く会

11/20～12/27 「第三回公募写真展」  
 12/1～1/13 寄贈品コーナー 「庶民信仰資料展」  
 1/6まで プラネタリウム「流れ星の降る夜」  
 1/12～3/3 「時間と空間」  
 1/16～2/27 寄贈品コーナー（地質部門）



※行事内容について分からぬ点がありましたら、御遠慮なくお問い合わせ下さい。

「あなたと博物館」15巻9号 通巻171号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 c3000  
 発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 ℡33-5111

### ■平塚市史第九巻（通史編）の頒布について

今までに刊行された平塚市史の資料編や収蔵資料を基に第一編を古代・中世、第二編を近世に分けて編集してあります。

頒布開始：12月15日（土）から  
 体裁：A5判、849頁、布表紙、箱入り  
 價格：5600円（郵送の場合、410円の送料がかかります。ご希望の方は、現金書留に代金と送料を同封し、申し込み下さい。）

申し込み先：平塚市博物館市史編さん係  
 （図書館西側入口）

住所 〒254 平塚市浅間町12-41  
 ℛ 32-5843

### ■体験学習「おかざりを作ろう」

お正月の一文かざり、ごぼうじめ、玄関かざりなどを作ります。

日時：12月22日（土）

午前10時～午後3時

申し込み：希望者は、往復はがきで博物館宛  
 申し込み下さい。（12月13日まで）希望者多数の場合は、抽選で30名までとします。

持ち物：後日、参加者にお知らせします。

### ■寄贈品コーナー「庶民信仰資料展」

庚申講・地神講の掛軸や全国各地のだるまを展示します。

期間：12月1日～1月13日まで

### ■年末・年始の休館について

休館日：12月28日～1月4日